

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372400248
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	グループホーム 元気村
訪問調査日	平成 20 年 11 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 4 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372400248
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	グループホーム 元気村
所在地	愛知県半田市浜田町3-10-5 (電話)0569-23-1269

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月4日

【情報提供票より】(19年12月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤	11 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 6 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	26,100 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4)利用者の概要(12月18日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	59 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	竹内整形外科内科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の医療法人と同じ敷地内にあるグループホームである。医療との連携でリハビリやシニアフィットネスをグループホームの利用者も受けることができ、身体機能維持に努めている。グループホームの中には回想法に使用される部屋もあり昔なじみの物品がたくさん置かれていた。また、スペシャルデーを1年に1度設けて、それぞれの利用者を行きたい所へ連れて行っている。映画鑑賞や墓参りに行き、利用者の意向の把握に役立っている。家族会を3ヶ月ごとに行い、独自のアンケートをとって家族の要望や意見を取り入れている。ヘルパー実習生や中学校の職場体験学習、ボランティアの受け入れを行い、地域との関わりを持つようになっている。更に今後は大型スーパーと隣接していることを活かして、ホーム側からグループホームや認知症のことなどを働きかけていかれることを期待する。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の1つとして同業者との交流があり、市内の3つのグループホームの管理者が集まり、交流が少し出来つつある。今後も交流の輪を徐々に広げていきたいと考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員にそれぞれ記入してもらい、それをホーム長がまとめた。評価を前向きに捉えサービスの質の向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はおおむね2ヶ月毎に開催している。出席者は市の介護保険課の職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、家族などである。ホームの活動状況やサービスの状況について報告すると共に積極的な意見交換が行なわれている。また、色々な立場から意見をもらいながら、それらがサービスの改善や向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	独自に家族にアンケートをとり、必ずその結果を報告している。3ヶ月に1度家族会を開催し、その時にケアプランをたてており家族からの意見や要望も聞きだすようにしている。家族からの意見や要望はミーティングで話し合い、職員全員で共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接している大型スーパーへは日常的に買物に出かけ店の人と挨拶を交わしている。法人の医療機関へ来た人が時々知り合いが居るということでグループホームへ立ち寄ることもある。中学校の職場体験やヘルパー実習生の受け入れを行なっている。地域のボランティアによる尺八やハーモニカの演奏、幼稚園クラブの人達のおどりを見せてもらっており、地域の人々との交流の機会づくりに取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者に質の高い安心なサービスの提供をします」という法人理念を基にグループホーム独自の理念として「ゆったり自由に笑って過ごせるように」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入口に掲げられ、日々意識付けられるよう取り組んでいる。また、理念を職員の月ごとの目標の中におり込むようにしている。ミーティングの折には職員に各々理念に準じるように働きかけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大型スーパーと隣接しており、日常的に買物に出かけ店の人と挨拶を交わしている。ヘルパー実習生の受け入れや中学校の職場体験学習を行なっている。また、地域のボランティアとして尺八、ハーモニカ、読み聞かせなどを披露してもらっている。	○	今後は、大型スーパーと隣接していることを活かしてホーム側から働きかけて、グループホームの存在や認知症について、勉強会の開催などの検討を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員にそれぞれ書いてもらい、それをホーム長がまとめた。前回の外部評価での改善は同業者と集まり、管理者同士で交流が少しできつつあることである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおもに2ヶ月毎に開催している。主な出席者は市の介護保険課の職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、家族などである。内容は活動状況や質疑応答、ホーム長が事前に家族に出しているアンケートの結果についてなどを話し合っている。出席者からの意見や助言は職員のミーティングで検討し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の職員が、運営推進会議に出席しているので連携はよくとれている。また、日頃はメールでのやりとりも行なわれており、互いに情報提供ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には必ず日頃の様子や健康状態などについて話すようにしている。また、毎月「元気村メール」という便りを送付している。写真付でカラフルで字も大きく見やすく工夫している。その便りに職員の異動の挨拶も載せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートをとり、その結果を知らせている。3ヶ月に1度家族会を行い、その機会にケアプランをたてており家族からの意見や要望も聞き出すようにしている。家族からの意見や要望はミーティングで話し合い、職員全員で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はある。利用者には事前に話し、元気村メールや家族会でも報告している。新人の職員は慣れた職員とマンツーマンで指導を受け、利用者となるべく話をするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や知多南部居宅介護事業者連絡会の研修などに参加している。受講後は報告書を書き、ミーティングの場で発表し情報の共有を図っている。また、新人職員は1日の仕事のチェックシートを使い、段階ごとにステップアップしていく工夫をしている。	○	法人内外の研修が比較的に少ないので、研修参加への働きかけを多くして情報交換やサービスの質の向上につなげて欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半田市内のグループホームのホーム長が集まり情報交換を行なった。	○	今のところホーム長のための情報交換となっているので、今後は職員も集まれるよう広げていきたいと考えているとのことである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族がホームを訪問してホーム長が説明をしている。1ヶ月体験入所がありその間にホームに馴染んでもらえるかどうかの検討をして本人や家族が入居を決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から地域の昔話を教わったり、入浴時や夜勤の時にゆっくりと会話をして時には人生相談をする時もあり、共に励まし合いいたわり合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話や表情や行動をみて察したり、家族に相談して要望や意向の把握に努めている。また、スペシャルデーを設け利用者が好きな映画を観に行ったり、食事に行くなど希望の場所へ出向き思いや意向の実現をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が3～4名でチームを作り利用者のカンファレンスを行う、その時に本人や家族、かかりつけ医などからも情報収集しており、それを経過シートに記入して介護計画書を作成している。毎月評価して見直しはしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な更新は確認できなかった。しかし毎月評価して見直しはしている。	○	定期的な更新を望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム一階に法人が設置するリハビリテーションやシルバーフィットネスがあり共に月2回ほど利用している。また、通院など家族の対応が困難な場合は職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に納得の上、かかりつけ医をホームの協力医に変更してもらっている。中には従来のかかりつけ医としている人もいる。その時の通院は家族が対応している。しかし家族が困難な場合職員が付き添いしている。また、月2回往診もあり、適切な医療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については入居時に本人や家族に「意向事前確認書」「看取り介護の同意書」を説明してサインをもらっている。利用者の状態をみて家族や医師との連携を図り出来るだけ希望に添うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについては家族に説明しており、同意を得ている。職員は利用者に対して尊厳の維持やプライバシーの尊重を心がけている。また、記録等の保管には気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の生活パターンは概ねできている。さらに体調の変化や気分配慮して、レクリエーションを行ったり、一緒に買い物に出掛けており、利用者本位に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から食事は業者に委託している。しかし盛り付けや後片付けは職員と利用者で行っている。また、おやつは一緒に作ることもある。食事は職員も利用者と同じ物を食べており、食べこぼしなどさり気ないサポートをしながら楽しく食事をしている。	○	利用者の出来る範囲でちょっとした調理が出来る様に工夫してはどうか検討されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は1日置きの入浴が多い。体調により変更もあるが週3回は入浴している。時間帯は13時から16時頃であり一人ずつゆっくり入ってもらっている。その時には職員といろいろな話しをする機会にもなっている。また入浴拒否が見られる時はタイミングを見計らい声をかけるなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやリクレーション、シニアフィットネス、毎日新聞を読む人など利用者個々に楽しみ事や気晴らしがあり、職員はそれを無理強いせず体調などを考慮して見守り支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分、また天候にも配慮して近隣をゆっくり散歩したり、隣接している大型スーパーへ買い物に毎日行っている。スペシャルデーを設け利用者個々に映画を観に行く等、外出したい所に職員が付き添い出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害は理解している。そのためグループホーム入口は施錠していないが、エレベーター前にアコーディオンカーテンが設置しており、入口がわかりにくくなっている。	○	エレベーター前にアコーディオンカーテンをするなど工夫はみられるが、初めて訪問する人には戸惑いがある。わかりやすく工夫できないものか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回グループホームだけでなく併設の病院やリハビリテーション施設と合同で行っている。消防署職員の協力を得て利用者の誘導の様子などを見てもらっている。また食料品の3日分の備蓄は用意がある。防災マニュアルは作成してある。	○	夜間想定避難訓練の実施を期待している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスなど配慮して、便秘にも気を使い食品の工夫はしている。水分摂取量は表を作り把握している。食事量についても大まかには把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くゆったりしている。季節を感じる手作りの飾りや利用者の行事の写真が飾ってある。通路には休憩できるたたみ使用のベンチがあり、そこで寛ぐ人もいる。2階の少し離れた部屋には「回想法」を取り入れた、釜、タンス、蓄音機、ミシン、看板などが設置しており、時には、そこで寛ぐ時もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、鏡台、家族の写真などが置いてあり、居心地のいい居室になっている。また個性のある暖簾が場所間違いの防止にもなっている。		